

継体天皇から勝家の歴史を巡る

公民館<9:20発>⇒⇒⇒丸岡城⇒⇒⇒福井県立歴史博物館⇒⇒⇒(昼食)⇒⇒⇒足羽山(足羽神社・継体天皇像)⇒⇒⇒北庄城跡⇒⇒⇒公民館<16:00着>

小坂公民館



丸岡城(北陸唯一の現存天守)

天正4年(1576)織田信長の命を受けた柴田勝家が、一向一揆に備えるために甥の勝豊に築かせた城で、近年の調査から、天守は寛永年間(1624~44)に建造されたことが分かっています。合戦時に井戸から現れた大蛇が霞を吹いて城を隠したとの伝説から「霞ヶ城」の別を持っています。外観は二層、内部は三層の望楼型天守閣で、石垣は”野づら積み”となっており、国の重要文化財で、城の周辺は、「霞ヶ城公園」として、春は桜の名所となっています。

「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」

この手紙は、徳川家康の忠臣「本多作左衛門重次」が、長篠の合戦(1575年)の折、陣中から妻に宛てて送ったもの。短い文章の中に大事なことが簡潔明瞭に言い尽くされています。この「お仙」とは、後の初代丸岡藩主になる本多成重(幼名：仙千代)のことです。

柴田勝家が築いた幻の名城

信長の家臣である柴田勝家によって築かれた城で、秀吉に「賤ヶ岳の戦い」で敗れた勝家が妻お市の方とともに自害し落城した城です。わずか8年しか存在しませんでした。この城や他の屋敷の屋根がすべて丸岡城の天守と同様に笏谷石製の石瓦で葺かれ、信長の安土城に匹敵する巨城だったといわれています。現在は、勝家とお市の方を合祀する柴田神社が隣接しており、勝家やお市の方と浅井三姉妹の銅像が建てられています。

小坂公民館

福井県立歴史博物館(昼食)



『ふくいモノとモノづくり』をテーマに、古代から現代までが展示された「歴史ゾーン」、高度経済成長を経て、日本のくらしが大きく変化した時代、昭和30年代後半から昭和40年代を再現した「昭和のくらし」、昭和20~30年代の記録映像やオリジナル番組を上映しています。



足羽山 継体天皇像

越前ゆかりの第26代天皇。福井平野の治水と笏谷石採掘などで知られ、洪水が治まるように足羽山から海に向かって矢を放つと、福井平野を覆っていた水が海の方に引いていったという伝説が残っています。石象は明治17年に笏谷石の石工によって、天皇の遺徳をたたえるために作られました。石像の立つ丘は、山頂古墳の一部となっています。

=歴史年表=

<450ごろ>

近江国(現在の滋賀県)で彦主人王の子として生まれる。この後、母・振媛のふるさと、越前の高向(たかむく)に移り住んだといわれている。

<507年>

57歳で樟葉宮(くすばのみや)(大阪府枚方市)に上り、第26代の天皇として即位。3度都を遷す。

<531年>

病により磐余玉穗宮(いわれのたまほのみや)(奈良県桜井市)で82歳の生涯を閉じる。



継体天皇とは

第26代継体天皇は応神天皇5世の子孫であり、父は彦主人王（ひこうしのおおきみ）と云われています。450年（日本書紀）、近江国高島郷三尾野（現在の滋賀県高島市）で誕生しました。

継体天皇の幼い時に父（彦主人王）を亡くされたため、母（振姫）の故郷である越前国高向（たかむく）（現在の福井県坂井市）で育てられ、男大迹王（おおどのおう）として5世紀末の越前地方を統治したとされています。

味真野郷（粟田部）（越前市）には、男大迹王（継体天皇）が潜龍（意味：まだ世に出る機会を得ていない英雄）されていた頃の治水事業や神社創建等の伝承が残されています。

男大迹王（継体天皇）の時代は、現在の福井平野は大きな湖や沼があり、そこへ九頭竜川、日野川、足羽川が注いでいたといわれ、男大迹王（継体天皇）が三国に水門を開いて平野の水を海に流すと、広大な福井平野が現れたという伝説が残っています。この功績に感謝して、坂井市三国町の三國神社では継体大王を祀っています。

506年に第25代武烈天皇が後嗣を定めずに崩御されたため、当初、大和朝廷の重臣は丹波国にいた仲哀天皇5世の孫である倭彦王（やまとひこのおおきみ）を抜擢したが、迎への軍勢を恐れて行方不明となったため、次に越前にいた男大迹王にお迎えが出され、王は大和朝廷の情勢を把握されてから翌507年58歳にして河内国樟葉宮（くすばのみや）において即位され、手白香皇女（たしらかのひめみこ）を皇后とされた。

継体天皇は樟葉宮にて即位した後、筒城宮（つつきのみや）、弟国宮（おとくにのみや）と移り最後に磐余玉穗宮（いわれのたまほのみや）に遷宮しました。大和入りまでに20年近くかかったため、「なぜヤマトの地で即位しなかったのか。」、「ヤマトに入るまで20年もかかったのは何故か」ということが謎として議論の対象になってきました。

継体天皇は、531年（日本書紀）に崩御されたとされていますが、陵は宮内庁により大阪府茨木市にある三嶋藍野陵（みしまあいののみささぎ）（太田茶臼山古墳）に定めています。しかし、築造時期は5世紀の中頃とみられるため、大阪府高槻市の今城塚古墳が6世紀前半の築造と考えられることから、同古墳を真の継体天皇陵とするのが定説になっています。

